

サッカーにおける逆転に関する研究

スポーツ数理科学ゼミナール 1316018 楠 豪

1. 研究動機・研究目的

2018年に開催されたFIFAワールドカップにおいて、日本代表はベルギー代表相手に2-0のリードを奪いながらも3失点を許し逆転負けを喫した。その試合後には「2-0は危険なスコア」というワードがSNSを中心に飛び交った。この言葉はこれまでJリーグを観戦してきて何度も目にしてきたもので、日本のサッカーファンは2点差のリードは決して安心できるものではないと認識しているようである。一方、欧州では2点差はセーフティリードという考え方があるようで、簡単に得点が決まらないサッカーの競技特性上こうした捉え方をすることは一般的であるように思われる。このように、同じ2-0のリードでもヨーロッパのようなサッカー文化が根付いた地域と日本では捉え方に違いが見られる。そこで生まれた疑問が、日本において2-0をはじめとした状況から逆転劇が起きる頻度は、世界各国と比べて本当に多いのだろうかということである。これまで感覚的なものであったこの疑問を解消すべく、各国のリーグや大会のデータを集計し検証していきたい。

本研究の目的は、過去のデータをもとに検証することで、2-0というスコアに対して感覚的ではなくより客観的な視点を持てるようにすることである。2-0からの逆転がどのくらい起こっているのかを知ることで、プレーする選手や指揮する指導者、そして観戦するサポーターもより客観的に試合の状況を見つめられるに違いない。日本と海外の比較によって、日本では逆転が多く起こっているというイメージが数値的に正しいかどうかを明らかにしたい。

2. 研究方法

2-0からの逆転劇がどのくらいの頻度で起こっているのかを、Jリーグをはじめとした日本の大会と世界各国のリーグや国際大会とで比較した。加えて、J1・J2・J3間の比較などレベルによってどのような傾向があるのかも検証した。

Jリーグ(J1、J2、J3)、関東大学サッカーリーグ、欧州各国リーグ、FIFAワールドカップ、UEFAチャンピオンズリーグ等のスコアデータから、2-0の状況が生じた試合を抽出し、最終的な勝利・引き分け・敗北の確率を導き比較した。抽出する試合の条件は2-0の状況が生じた試合のみであり、同じ2点差でも3-1や4-2という状況は対象外とした。2-0でリードしたチームを基準に考えるため、2-0としたチームが一度追いつかれたり逆転されたとしても、再び勝ち越したりすれば「勝利」とカウントした。あくまでも2-0とリードしたチームの最終結果のみが分析対象となるため、2-0となった後にどのような経緯で最終結果に至ったかは考慮しないこととした。

比較する条件を揃えるため、延長戦に突入した試合は前後半90分間のスコアのみを検証の対象とした。また、UEFAチャンピオンズリーグのノックアウトステージのように2戦合計で勝敗を決める試合は、第2戦が実質0-0の状況から始まらないなど通常のゲームとは異なる状況となるため対象外とした。期間は基本的に5シーズン分とし、4年ごとに開催さ

れる W 杯は 6 大会分のデータを用いた。スコアデータは、J. League Data Site や関東大学サッカー連盟オフィシャルサイト、FlashScore.com のデータを用いて検証した。

3. 主な結果と考察

J1 では 2-0 からの逆転が 1 シーズン平均 3.2 回という結果になったが、年に 10 回程度は逆転が起こっているという感覚を持っていただけに予想外であった。J2、J3 も J1 とほとんど変わらず 1 シーズン平均 3 回程度であった。驚きの結果を見せたのが関東大学リーグ 1 部である。逆転が起こったのは平均 6.1% と J1 の 2 倍の数値となった。J リーグに比べて対象の試合数がおよそ半分であるのが影響している可能性も否定できないが、ここまで大きな差が出るのは予想外であった。欧州 4 大リーグではどのリーグもほとんど差は見られないという結果になった。2-0 からの逆転の割合は、プレミア、ラ・リーガ、セリエ A、ブンデスがそれぞれ 1.9%、1.3%、1.2%、1.6% であった。UEFA チャンピオンズリーグは欧州 4 大リーグと同じく逆転の確率は 1.5% と低かった。1 大会 96 試合しかないため逆転が起こっていないシーズンも多く、勝率のばらつきも大きい。FIFA ワールドカップでは驚くことに、過去 6 大会で逆転は 2 度しか起こっていなかった。

10 大会全てを比較すると、全体的に見ると海外よりも日本の方が 2-0 からの逆転が起こる確率が高いと言える。J リーグが 3% 弱であるのに対し、海外は 1.5% 前後であることから、J リーグは海外に比べて 2-0 からの逆転が約 2 倍起こっていると言って良いのではないだろうか。2-0 でリードしたチームの勝率を比較すると W 杯が最も高いのは興味深い結果になった。W 杯の舞台における 2 点先取は勝利に限りなく近づくと言える。

検定を行った結果、調整化残差が 2 以上だったのは関東大学リーグ 1 部のみであり、それ以外は誤差の範囲内と言える。

4. 結論

数字上は J リーグの方が海外のリーグに比べて 2-0 からの逆転が起こる確率が高かったが、検定結果から分かるように誤差の範囲内だと言える。ベルギー戦のように 2-0 からの逆転は強く印象に残るため危険だと思いがちだが、9 割以上は勝利しているという事実を忘れてはいけない。

複数の大会を分析したことでそれぞれのリーグの傾向が見られたのは興味深かった。これらの事実にとどまらず、クラブ間の戦力差などを考慮し根拠のある原因を追求することができればより面白いものになるのではないだろうか。その他にも 2-0 の状態となった試合の得点時間やホーム&アウェー、2-0 からの最終結果のチームごとの傾向、南米などのリーグや大会、異なるスコアなどの検証へと発展できるに違いない。

5. 卒業論文の執筆を終えて

研究当初はリーグごとの傾向は見られず予想していた結果が得られないのではないかと思っていたが、データの増加とともに日本と海外で異なる傾向が見え始めたのが面白いと感じた。当初は日本と欧州以外のリーグの比較や 2-0 以外のスコアの検証もする予定であったがそこまでは及ばなかった。身近にある感覚的な疑問をデータによって明らかできたことでデータ分析の魅力や面白さを再認識できた。